

2024年度 学校自己評価・関係者評価

学校番号72 長野県木曾青峰高等学校 全日制

学校教育目標	重点目標
<p>新しい生き方、新しい社会の実現を目指し、自らを、地域を、社会を re デザインする人を育てる (re デザイン:繰り返し描き実現して行く) (教育方針)</p> <p>◇育てたい人間像</p> <p>○あきらめない心を持ち、創造力豊かに、自分や地域・社会の未来を re デザインしていく人</p> <p>○課題解決に向かって、様々な立場を乗り越え、多様な主体とともに力を合わせていける人</p> <p>○自然や地域文化を大切に作る心を持ち、地球環境の未来を考える視野を併せ持った人</p> <p>◇育てたい力</p> <p>○幅広い教養とそれによる自分と社会をつながてみる視野の広がり『教養力』</p> <p>○将来の可能性を広げるため、まずその基本固めを志す『基本力』</p> <p>○物事を理論的に考え、本質を見抜こうとする『探究力』</p> <p>○物事の新しい在り方、モノづくりの明日をデザインして表現できる『構想力』</p> <p>○多様な主体を互いに認め合い、他者と力を合わせて課題に取り組む『協働力』</p> <p>○主体的に自分や社会の未来を描き続けようとする『志力』</p>	<p>① いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。</p> <p>② 多様な生徒の進路希望をサーチし、自己肯定力を持たせながら主体的に自己の到達点を定めた学びができる生徒の育成を、様々な機会を活かし進める。</p> <p>③ 地域社会や地元の教育機関とつながり、開かれた学校を目指しながら、生徒自身が地域社会に参画し貢献できる環境を活用し、個人と社会のWell beingを実現させる。</p> <p>④ 専門科の全国募集に向け、実施に向けた学びの環境を整える。</p>

評価 A…よい B…おおむねよい C…不十分  
アンケート集計 5…よい 4…おおむねよい 3…どちらともいえない 2…やや不十分 1…不十分

自己評価 学習指導	学校評議員記入欄		
	評価	評価 コメント	
<p><b>授業内容の充実</b></p> <p>【成果と課題】 授業アンケートの結果を見ても授業内容が充実している。生徒も授業に対して積極的に取り組んでいると言える。ICT機器を導入し、各教科の特性を活かした授業が多く展開されている。今後は、デジタル教材や新たなツールの導入によりタブレットをより有効に使うことが求められる。</p> <p>【改善策・向上策】 タブレット導入の授業については、教員間での積極的な意見交換、公開授業を積極的に実施することや他校の実践例の研究を行うことが望ましいと考える。</p>	A	A	<p>・探究的な学びは、生徒さんのニーズに合致しているのでしょうか。理数科志望者が減少していることとの関係はまったくないでしょうか。</p> <p>・タブレット使用で教職員は大変ですね。</p>
<p><b>家庭学習の習慣</b></p> <p>【成果と課題】 学校から出された課題はほとんどの生徒は行っている。しかしながら受動的な姿勢が多く見られ、自ら考えて学習方法を身につけていくことが必要とされる。</p> <p>【改善策・向上策】 各教科において、学習方法のベースをしっかりと説明して実践できるような働きかけがさらに必要となる。自ら課題を見つけ解決していく力を、生徒が身につけるような学習指導を行わなければならない。短い時間で集中して取り組むことも必要である。</p>	B	B	<p>・主体的に学ぶ姿勢が重要と考えますが、個々への対応も必要と思います。今後もご尽力をお願いします。</p> <p>・高校サイドの課題というよりも中学校でも課題として取り組んでいる。学習習慣については、小中高の連携が必要だと感じている。</p> <p>・一番大事なことで向上心を持つ人を増やしてください。</p>
<p><b>授業・補習内容の充実</b></p> <p>【成果と課題】 各学科で実施している補習にはほぼ全員の生徒が参加している。各学科に特化した補習が実施されている。3年生については放課後や土曜を利用した補習を実施することで学力の向上に努めている。理数科については土曜授業の影響もあり、放課後補習に重点を置かなければならないのが現状である。日課表や教育課程の見直しが必要となる。</p> <p>【改善策・向上策】 休業中や土曜日の補習については、各教科の特性を活かした内容を十分に検討し実施する必要がある。</p>	B	A	<p>・ありがたいことですが、先生方の負担などは大丈夫でしょうか。学習塾のサテライト利用なども考えられるでしょうか。手厚い補習体制に地域の子供達を大切にいただいていることが伝わる。また、中学校での定着を図る取り組みを進めていきたい。</p> <p>・大変ですが補習はおおいにやってください。</p>
<p><b>各種資格検定への取り組み</b></p> <p>【成果と課題】 目標を持ち積極的に資格取得に挑戦する生徒が多く、熱心に学習する姿が見受けられた。資格取得や検定試験に合格することで次の目標に向かう意欲が持っている。</p> <p>【改善策・向上策】 資格取得学習の充実と改善を図っていききたい。目標を高く持ち毎日の学習が充実したものになるようにしたい。合格したことから自信を持たせ、次の目標に向かわせたい。</p>	A	A	<p>・資格検定は重要であります。</p>

進路指導	評価	評価	コメント
<p><b>進路目標の明確化</b></p> <p>【成果と課題】 進路講演会、企業説明会、進路ガイダンスなどを通じて、生徒に自らの進路を主体的に考えさせた。日頃の面談、懇談会において生徒一人ひとりの進路希望の確認、助言をすることができた。</p> <p>【改善策・向上策】 生徒が進路目標を早期に明確にできるよう、これからも生徒の実態に合わせた進路行事を企画し、各学科に必要な進路情報を提供していききたい。</p>	A	A	
<p><b>具体的な進路指導</b></p> <p>【成果と課題】 各学年の工夫のもと学科の特性に応じた進路指導が行われ、成果につながっている。上級学校の資料や求人票、情報検索用タブレットを生徒が活用しやすいよう整理、設置している。新課程入試の対策も各教科を中心に行った。</p> <p>【改善策・向上策】 オープンキャンパスや企業見学、校外の進学相談会などに生徒が主体的に参加することによって、希望する進路について理解を深めることができた。新課程入試については令和7年度入試の結果・分析を踏まえ、来年度の入試対策に活かしていきたい。</p>	A	A	<p>・中学生およびその保護者にこういう部分もコマース化していただけたらいいと思います。</p>

進路の実現			
【成果と課題】 模擬試験の結果や進路希望調査で確認した情報をもとに、生徒の希望や条件に沿った受験校の選択について助言できた。入試方式の多様化により、出願や入試準備時期に個人差があるが、生徒の進路実現に向け、書類作成や面接・小論文指導ができた。	A	A	
【改善策・向上策】 一般受験を目指す生徒の割合に大きな変化はないが、上級学校の年内入試（学校推薦型選抜・総合型選抜）の割合が増加するのに伴い、本校でも希望者が増えていく可能性がある。今後も受験方式に対する適正を考えられるよう指導していきたい。			

生徒支援	評価		
生徒の人権意識・自己指導力の育成			
【成果と課題】 学校生活アンケートやSSTを取り組むことで、少しずつではあるが、対人関係のスキルを身に付け、人間関係の構築が図れるようになった。また、授業や部活動、生徒会活動やHRでの主体的に取り組みが多くみられ、生徒自身が律する力が高まった。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS等の使用にあたり問題となる個人情報取り扱いなど、今後も十分な指導をお願いしたい。</li> <li>・中高連携した対応をしていただきありがたかった。</li> </ul>
【改善策・向上策】 SNSの使用方法やSSTやゲートキーパー講座で学んだことを、さらに日常生活に生かせるよう、働きかけをしていきたい。生徒に考えさせ自己のコントロールできる力や自制心を身に付けられるよう自ら行動に移せるような場面を意識させていきたい。			
社会性の涵養			
【成果と課題】 体外的な社会との関わりやSNSでの扱い、安全性について一つずつ構築していく必要がある。主体的に社会と関わりを持つことで、社会の一員であるという自覚が持てる生徒を育成していく。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性の時代に社会性・協調性を身につけることは、大変であると思います。しかし、いつか社会に出ていく方々ですので、少しずつ育成いただければと願っています。</li> <li>・地域の中で、自ら挨拶をしたり、こちらの挨拶にこたえてくれたりする生徒さんがいてうれしく思います。そのような輪がさらにひろがると思います。</li> </ul>
【改善策・向上策】 社会とかわかることができる場面には積極的に場の提供をし、モラル・マナーの向上、社会性・協調性の涵養を目指す。また、SNSも含めたあらゆる場面で育成の機会であるという認識を全職員が持ち、取り組んでいきたい。			
カウンセリングの充実			
【成果と課題】 生徒へカウンセリングを周知し、関係職員と連携し生徒の実態把握に努めた。支援が必要な生徒に対し円滑にカウンセリングにつなげたり、相談指導ができた。SCだけでなく、関係する外部機関と連携し支援することができた。SCの配当時間に限りがある為、すべての生徒たちが毎月カウンセリングを受けることができない。担任、相談係で次のカウンセリングまでの間相談を担当するが専門的な対応を求められる場合困難さを感じる。	A	B	小中高連携して対応したい。
【改善策・向上策】 カウンセリングの年間計画を立てながら調整をし、必要とする人がカウンセリングを受けられる体制を整える。町が運用しているカウンセリングも必要に応じて活用していく。職員研修を通し担任をはじめ生徒に関わる時に役に立つ情報を提供していく。職員間の連携を強化していく。			

特別活動	評価		
自主活動の充実と生徒の自立			
【成果と課題】 委員会活動や行事などを生徒の成長の場と捉え、自主的に取り組むように促すことができた。役員による連絡会やミーティングなど情報共有の機会を多くし、より良い運営・活動を模索しながら活動することができた。生徒減少により、委員会等の構成人数、生徒会予算などの検討が必要となっている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の生徒さんの中では、運営が難しい状況かと思われます。</li> </ul>
【改善策・向上策】 役員だけでなく、全校生徒の意見も聞きながら今後の生徒会活動について考えていきたい。			
地域を視野に入れた活動			
【成果と課題】 蒼陵祭や地域での行事、ボランティア活動などを通して、本校をアピールする事が出来た。同時に生徒が地域を見つめなおす良いきっかけをつくることができた。木曾養護学校との交流会は今年度は4回行い、互いへの理解を深めることができた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアで学べるが多くあると思います。生徒さんが少ない中大変ですが、良い経験とと思います。</li> <li>・地域の花壇整備に、先生、生徒さんが参加してくれうれしく思いました。</li> <li>・貴校のさまざまな取り組みに学ばせていただきました。</li> </ul>
【改善策・向上策】 地域の行政やボランティアと連携しながら様々な地域課題に積極的に関わっていけるような取組をより行っていきたい。			

全般	評価		
<b>PTA活動の充実・家庭との連携</b> <b>【成果と課題】</b> 計画通りにPTA総会および地区PTA懇談会を開催することができた。学校環境委員会、学校行事委員会、文化委員会の活動を予定通り実施できた。会員数の減少に伴い地区懇談会再編成を行った。また、参加する教員の数を減らして負担を軽くした。委員会の構成を再考する必要がある。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員数の減少に伴う絵今日は多いと思われます。縮小等の対応も仕方ないと考えます。</li> <li>・PTAも地域おこしの団体でよろしく。</li> </ul>
<b>【改善策・向上策】</b> 会員数の減少に伴い学校環境委員会、学校行事委員会、文化委員会の再編成をする必要がある。具体的には、理事会で審議していく。			
<b>情報発信</b> <b>成果と課題】</b> ホームページに関しては、既存のものはHTMLの専門知識を要したが、本年度は刷新したことにより簡単に更新が可能になった。本校関連の新聞記事の掲載数も1月17日時点で60件と地域に向けた発進を積極的に行っている。地域の方からも記事について反響がある。 スクールマガジンは、今年度第5号まで発行予定である。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろとやっていただいていると思います。中学校へのPR活動にさらに力を入れていただければと思います。</li> <li>・スクールマガジン新開の取材も多く大変立派であります。</li> </ul>
<b>【改善策・向上策】</b> ホームページは、今後更新頻度さらに増やせるよう職員研修を行いながら学校のPRにつなげていきたい。 スクールマガジンは次年度も郡内中学校(一部小学校)の全生徒に配布していきたい。また、発行回数も予算面の課題はあるが、できるだけ数多く発行し、学校および生徒の活動状況を地域の皆様に発信していきたい。			
<b>地域との連携・開かれた学校づくり</b> <b>【成果と課題】</b> 文化祭(蒼陵祭)には多くの地域の方、保護者の方に来校いただいた。本年度が最終年となる「未来の学校」構築事業や探究に関する授業においても地域の方に多く来校いただいた。 体験入学については、参加者数は、昨年度より多くなった。郡外、県外からの参加者もいた。個別の学校見学は12人で郡外からの参加者であった。 本年度、年間通しての授業公開を行ったが参観者数は少なく、情報発信の方法を検討する必要がある。4科合同発表会は郡内中学校等および蘇南高校へオンライン参加通知を配信し、本校の広報につながった。 課題研究発表会およびインテリア科作品展は、生徒の学習内容及び成果を保護者の方々に公開する予定である。 危機管理体制については木曾地域振興局・木曾町と話し合いの機会を持った。今後は更に検討が必要である。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加できずに申し訳なかったですが、色々やっていただいていると感じています。</li> <li>・開かれた学校づくりとう大変良いことで志願者が多くなります。</li> </ul>
<b>【改善策・向上策】</b> ホームページやスクールマガジン等を通して、本校の活動を広報の充実に努めたい。			
<b>生徒・職員の健康管理</b> <b>【成果と課題】</b> 生徒の感染症については情報共有をこまめに行った。職員については学校安全衛生委員会での産業医の助言等を伺い検討した。	B	B	
<b>【改善策・向上策】</b> 分掌で負担軽減となるようにする。			
<b>連絡体制の完備</b> <b>【成果と課題】</b> 一斉メールにより情報を昨年度より各家庭に伝える事ができた。内容については、迅速でより正確行うように努力する。	A	A	
<b>【改善策・向上策】</b> 一斉メールは登録率100%に向け、継続して登録の呼びかけを行なう。			